

<全体分析>

試験時間 60分

解答形式

全問マーク式

分量・難易(前年比較)

分量(減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)

難易(易化・やや易化・**変化なし**・やや難化・難化)

大問4題・小問50問

出題の特徴や昨年との変更点

時代では近現代36%(うち戦後が12%)、古代30%、近世26%、中世8%で、原始からの出題はなかった。中世からの出題が少なく戦後を下回った。

分野では文化34%、政治28%、社会経済20%、外交18%が出題された。

その他トピックス

今年も地図・年表・会話文を使用した問題が出題された。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
[I]	選択 空欄語群	近世・近代 文化	元禄期から文明開化期の思想 (A)元禄文化の儒学、(B)化政文化の社会思想、(C)文明開化の啓蒙思想。 (8)「本多利明」をリード文の情報から確定するのはやや難。(10)「ミル」もやや難。受験生が苦手とする思想史からの出題だが、問われているのは基本的事項なので対策次第で差が付いたであろう。	やや易
[II]	選択 空欄語群	古代 外交	7～11世紀の東アジアと日本 (A)唐・新羅・渤海と日本、(B)9～11世紀の日中関係。 (5)「和同開珎」は「乾元大宝」と、(8)「安史」は「黄巢」と、(9)「陶磁器」は「水銀」と、(10)「成尋」は「奄然」とそれぞれ紛らわしくやや難。東アジアの歴史を世紀ごとに捉えられていたかが鍵。	標準
[III]	選択 用語3択 組合せ3択 空欄3択 文章3択 (史料)	近代 総合	明治期から戦後の史料問題 (A)福沢諭吉の歴史観(『文明論之概略』)、(B)金融恐慌(『伯爵伊東巳代治』)、(C)ドッジ声明(朝日新聞)。 新井白石の「九変五変論」を問う問2、ガリオア資金の終了年を問う問13は難。問12「有沢広巳」も難だが本学では過去に出題例あり。問3は史料の文脈から「政府」を選びたい。問5「丸山真男」、問10「労働農民党」などで差がついたであろう。	標準
[IV]	選択 用語3択 (会話文)	古代～近代 政治・外交・文化	歴史と現代社会 (5)「スペイン」、(7)「義持」、(10)「康勝」(11)「後一条」、(12)「東三条殿」はやや難。(15)は624年までには唐が成立していたことが分かれば解答できる。	やや易

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

- ①基本事項を問う問題が多いことから、教科書中心の学習を徹底することが肝要である。
- ②史料問題は全ての日程で出題されている。教科書や市販の史料集などに掲載されている基本的な史料を中心に対策を立てておきたい。
- ③文化史からのからの出題が全時代を通じて多く、難度も高い。また、図版を使用した問題もみられるので、教科書の図版を含めた文化史対策が重要である。
- ④地図を用いた問題や、歴史地理的事項を問う問題は頻出である。日頃から教科書掲載の地図や文章中の地名などなどを確認しながら学習すること。
- ⑤同一事項や史料が繰り返し出題される。過去問の研究は必須である。